

## 授業計画(シラバス)

科目名	政治経済 I	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ政経		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	国内政治	社会契約説の理論と各国の政治制度について
	2	国際政治	憲法の分類と明治憲法との相違点について
	3	国際政治	憲法の分類と明治憲法との相違点について
	4	日本経済	国民所得計算
	5	経済政策	金融政策について
	6	財政	財政政策について
	7	世界経済	貿易について
	8	厚生	国民保険制度
	9	労働	労働基本権
	10	環境	公害問題
	11	社会問題	国際問題と地域紛争
	12	過去問題演習①	総合問題
	13	過去問題演習②	総合問題
	14	過去問題演習③	総合問題
	15	過去問題演習④	総合問題
	16	過去問題演習⑤	総合問題
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	政治経済 I	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ政経		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	過去問題演習⑥	総合問題
	18	過去問題演習⑦	総合問題
	19	過去問題演習⑧・学期末試験	総合問題
	20	過去問題演習⑨・学期末試験	総合問題
	21	過去問題演習⑩	総合問題
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	日本史 I	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ日本史		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	原始時代、古代前期	古代国家の誕生
	2	平安時代、鎌倉時代	古代の文化
	3	平安時代、鎌倉時代	古代の文化
	4	室町時代	南北朝と室町幕府
	5	戦国時代から幕藩体制の成立	織豊政権と江戸幕府の成立
	6	江戸時代の政治と社会	江戸幕府の機構
	7	江戸時代の文化	上方と江戸の文化
	8	開国・維新期の政治と社会	幕藩体制の動揺と崩壊
	9	明治・大正の文化	近世の文化
	10	2つの世界大戦と日本	ファシズムの形成と終焉
	11	戦後昭和と政治と社会	民主化の発展
	12	原始時代、古代前期	古代国家の誕生
	13	平安時代、鎌倉時代	古代の文化
	14	室町時代	南北朝と室町幕府
	15	戦国時代から幕藩体制の成立	織豊政権と江戸幕府の成立
	16	江戸時代の政治と社会	江戸幕府の機構
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	日本史 I	指導担当者名	高橋 信男
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ日本史		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 後期	17	江戸時代の文化	上方と江戸の文化
	18	過去問題演習①	総合問題
	19	過去問題演習②・学期末試験	総合問題
	20	過去問題演習③・学期末試験	総合問題
	21	過去問題演習④	総合問題
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	世界史 I		指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	オープンセサミシリーズ世界史			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  前期	1	西洋史①	イタリア史	
	2	西洋史②	ドイツ・オーストリア史	
	3	中国史①	王朝史	
	4	中国史②	王朝史	
	5	中国史③	中世・近世史	
	6	インド史	マハラジャから現代まで	
	7	帝国主義	植民地の争奪	
	8	世界恐慌とファシズム	世界恐慌後の国際情勢	
	9	第二次世界大戦後の世界	平和共存に向けての仕組み	
	10	冷戦	冷戦の始まりと終焉	
	11	中国史①	王朝史	
	12	中国史②	中世・近世史	
	13	インド史	マハラジャから現代まで	
	14	帝国主義	植民地の争奪	
	15	世界恐慌とファシズム	世界恐慌後の国際情勢	
	16	第二次世界大戦後の世界	平和共存に向けての仕組み	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。				

## 授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	世界史 I	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ世界史		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	冷戦	冷戦の始まりと終焉
	18	過去問題演習①	総合問題
	19	過去問題演習②・学期末試験	総合問題
	20	過去問題演習③・学期末試験	総合問題
	21	過去問題演習④	総合問題
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	地理 I	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ地理		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	気候	気候区分とグラフ
	2	土壌	主な土壌
	3	土壌	主な土壌
	4	農業	世界の農業
	5	資源	エネルギー資源と鉱産資源
	6	工業	世界の工業
	7	世界の地域①	アジア
	8	世界の地域②	アフリカ
	9	世界の地域③	ヨーロッパ
	10	世界の地域④	アメリカ
	11	世界の地域⑤	オセアニア
	12	気候	気候区分とグラフ
	13	土壌	主な土壌
	14	農業	世界の農業
	15	資源	エネルギー資源と鉱産資源
	16	工業	世界の工業
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	地理 I	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ地理		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	世界の地域	全世界
	18	過去問題演習①	総合問題
	19	過去問題演習②・学期末試験	総合問題
	20	過去問題演習③・学期末試験	総合問題
	21	過去問題演習④	総合問題
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			



## 授業計画(シラバス)

科目名	自然科学 I	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の基礎学力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員国家 公務員地方初級 ④ 自然科学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	物理 第1章 速度・落体運動	講義・演習
	2	物理 第2章 力のつり合い・運動法則	講義・演習
	3	物理 第3章 運動量・力学的エネルギー	講義・演習
	4	地学 第1章 地球の概観・	講義・演習
	5	地学 第2章 地殻の構成物質	講義・演習
	6	地学 第3章 地球内部のエネルギー	講義・演習
	7	化学 第1章~3章 物質の構成・化学の基礎・原子分子	講義・演習
	8	化学 第4・5章 化学結合・分子原子量	講義・演習
	9	化学 第6章 化学反応式	講義・演習
	10	生物 第1章 細胞	講義・演習
	11	生物 第2章 酵素	講義・演習
	12	生物 第3・4章 同化・異化	講義・演習
	13	物理 第4章 運動法則	講義・演習
	14	物理 第5章 運動量の保存	講義・演習
	15	物理 第6章 力学的エネルギー	講義・演習
	16	地学 第4・5章 地球の歴史・大気の運動	講義・演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自然科学 I	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の基礎学力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員国家 公務員地方初級 ④ 自然科学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	化学 第7・8章 物質の状態変化・気体の性質	講義・演習
	18	化学 第9・10章 溶液の性質と溶解度・化学平衡	講義・演習
	19	化学 第11・12章 酸と塩基・中和	講義・演習
	20	化学 第13・14・15章 酸化・還元反応・イオン化傾向と電池・電気分解	講義・演習
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	適性・文書理解 I	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	3時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の適性能力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ウイネット全80回適性試験・天声人語書き写し		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	第1回～3回	演習
	2	第4回～6回	演習
	3	第7回～9回	演習
	4	第10回～12回	演習
	5	第13回～15回	演習
	6	第16回～18回	演習
	7	第19回～21回	演習
	8	第22回～24回	演習
	9	第25回～27回	演習
	10	第28回～32回	演習
	11	第33回～36回	演習
	12	第37回～39回	演習
	13	第40回～42回	演習
	14	第43回～45回	演習
	15	第46回～48回	演習
	16	第49回～51回	演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	適性・文書理解 I	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	3時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の適性能力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ウイネット全80回適性試験・天声人語書き写し		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	第52回～54回	演習
	18	第55回～58回	演習
	19	第59回～61回	演習
	20	第62回～64回	演習・期末テスト
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	国語	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	20時間	週時間数	1時間
学習到達目標	各人の受験級合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日本漢字能力検定協会準2級2級問題集・日本語検定協会3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	漢字検定問題集演習	演習
	2	漢字検定問題集演習	演習
	3	漢字検定問題集演習	演習
	4	漢字検定問題集演習	演習
	5	漢字検定問題集演習	演習
	6	漢字検定問題集演習	演習
	7	漢字検定問題集演習	演習
	8	日本語検定問題集	演習
	9	日本語検定問題集	演習
	10	日本語検定問題集	演習
	11	日本語検定問題集	演習
	12	日本語検定問題集	演習
	13	日本語検定問題集	演習
	14	日本語検定問題集	演習
	15	日本語検定問題集	演習
	16	日本語検定問題集	演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	国語	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	20時間	週時間数	1時間
学習到達目標	各人の受験級合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	日本漢字能力検定協会準2級2級問題集・日本語検定協会3級問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	日本語検定問題集	演習
	18	日本語検定問題集	演習
	19	日本語検定問題集	演習
	20	日本語検定問題集	演習
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	基礎数学	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	20時間	週時間数	1時間
学習到達目標	基本演習とその解説により、公務員試験に必要な数学の基礎知識を定着させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	文章問題の解きかたがわかる		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	分配算	問題演習・解説
	2	分配算	問題演習・解説
	3	分配算	問題演習・解説
	4	平均算	問題演習・解説
	5	平均算	問題演習・解説
	6	相当算	問題演習・解説
	7	相当算	問題演習・解説
	8	流水算	問題演習・解説
	9	流水算	問題演習・解説
	10	旅人算	問題演習・解説
	11	旅人算	問題演習・解説
	12	時計算	問題演習・解説
	13	時計算	問題演習・解説
	14	通過算	問題演習・解説
	15	通過算	問題演習・解説
	16	年齢算	問題演習・解説
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	基礎数学	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	20時間	週時間数	1時間
学習到達目標	基本演習とその解説により、公務員試験に必要な数学の基礎知識を定着させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	文章問題の解きかたがわかる		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	年齢算	問題演習・解説
	18	植木算	問題演習・解説
	19	方陣算	問題演習・解説
	20	仕事算	問題演習・解説
	21	ニュートン算	問題演習・解説・期末テスト
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			



## 授業計画(シラバス)

科目名	数的推理 I	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	3時間
学習到達目標	数的推理の内容についてひとつずつ順を追って理解できるようにしていく。次年度受験に向けての十分な準備のできる内容として進める		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ 一般知能、補足プリント		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	方程式	四則応用、方程式
	2	方程式	不等式
	3	方程式	二次方程式
	4	方程式	平均算・年齢算
	5	割合	比、混合算
	6	割合	売買算
	7	割合	増減、仕事算
	8	割合	ニュートン算
	9	割合	最大・最小
	10	速さ	速さ、旅人算
	11	速さ	通貨算
	12	速さ	流水算
	13	速さ	時計算
	14	確率	場合の数
	15	確率	順列
	16	確率	順列
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	数的推理 I	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	3時間
学習到達目標	数的推理の内容についてひとつずつ順を追って理解できるようにしていく。次年度受験に向けての十分な準備のできる内容として進める		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ 一般知能、補足プリント		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	確率	組合せ
	18	確率	確率
	19	確率	確率
	20	期末試験	
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	判断推理 I	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	3時間
学習到達目標	次年度9月の高卒程度公務員試験受験に向けて基礎力アップを図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ 一般知能(判断推理)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	順序関係	問題演習・解説
	2	順序関係	問題演習・解説
	3	順序関係	問題演習・解説
	4	対応関係	問題演習・解説
	5	対応関係	問題演習・解説
	6	対応関係	問題演習・解説
	7	集合	問題演習・解説
	8	集合	問題演習・解説
	9	論理	問題演習・解説
	10	論理	問題演習・解説
	11	位置関係	問題演習・解説
	12	位置関係	問題演習・解説
	13	位置関係	問題演習・解説
	14	試合	問題演習・解説
	15	試合	問題演習・解説
	16	試合	問題演習・解説
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	判断推理 I	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	60時間	週時間数	3時間
学習到達目標	次年度9月の高卒程度公務員試験受験に向けて基礎力アップを図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ 一般知能(判断推理)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 後期	17	証言	問題演習・解説
	18	証言	問題演習・解説
	19	証言	問題演習・解説
	20	総合問題①・学期末試験	問題演習・解説
	21	総合問題②・学期末試験	問題演習・解説
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I		指導担当者名	徳永 圭子
実務経験				実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員科1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:
時間数	29時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	高卒程度公務員試験2次面接対策			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	iPad			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	試験概要説明	講義	
	2	機関研究	調査・研究	
	3	機関研究	調査・研究	
	4	機関研究	調査・研究	
	5	機関研究	調査・研究	
	6	目標設定	学習計画作成	
	7	機関研究	調査・研究	
	8	機関研究	調査・研究	
	9	機関研究	調査・研究	
	10	機関研究	調査・研究	
	11	機関研究	調査・研究	
	12	機関研究	調査・研究	
	13	目標設定	学習計画の見直し	
	14	目標設定	学習計画の作成	
	15	面接対策	自己PR作成	
	16	面接対策	自己PR作成	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験2次面接対策		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	iPad		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	面接対策	自己PR作成
	18	面接対策	志望動機作成
	19	面接対策	志望動機作成
	20	目標設定	志望動機作成
	21	機関研究	面接
	22	機関研究	面接
	23	機関研究	面接
	24	機関研究	面接
	25	目標設定	過去問による演習
	26	面接対策	過去問による演習
	27	面接対策	過去問による演習
	28	面接対策	過去問による演習
	29	面接対策	過去問による演習
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	Excel実習・概論		指導担当者名	遠藤紀子 佐久間春奈
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年		
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
時間数	80時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	社会人として必要な技術の取得と検定試験の合格を目指す。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Excel2010クイックマスター基本編・3級問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  前期	1	第1部 Chapter1	演習	
	2	第1部 Chapter2	演習	
	3	第1部 Chapter3	演習	
	4	第1部 Chapter4	演習	
	5	第1部 Chapter5	演習	
	6	第1部 Chapter6	演習	
	7	第1部 Chapter7	演習	
	8	第1部 Chapter8	演習	
	9	第2部 Chapter0	演習	
	10	第2部 Chapter1	演習	
	11	第2部 Chapter2	演習	
	12	第2部 Chapter3	演習	
	13	第2部 Chapter4	演習	
	14	総合学習問題	演習	
	15	テーマ別知識練習問題	演習	
	16	テーマ別知識練習問題	演習	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。				

## 授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	Excel実習・概論		指導担当者名	遠藤紀子 佐久間春奈
実務経験				実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年		
授業方法	講義:	演習:	実習:	実技:
時間数	80時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	社会人として必要な技術の取得と検定試験の合格を目指す。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	Excel2010クイックマスター基本編・3級問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 後期	17	実技練習問題	演習	
	18	実技練習問題	演習	
	19	パワーポイント・期末試験		
	20	パワーポイント・期末試験		
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
31				
32				
履修上の留意点				



## 授業計画(シラバス)

科目名	政治経済Ⅱ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	27時間	週時間数	4時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ政経		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	日本経済	国民所得計算
	23	経済政策	金融政策について
	24	財政	財政政策について
	25	世界経済	貿易について
	26	厚生	国民保険制度
	27	労働	労働基本権
	28	環境	公害問題
	29	過去問題演習①・学期末試験	総合問題
	30	過去問題演習②・学期末試験	総合問題
31	過去問題演習③	総合問題	
32			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	日本史Ⅱ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	18時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ日本史		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	開国・維新期の政治と社会	幕藩体制の動揺と崩壊
	23	明治・大正の文化	近世の文化
	24	2つの世界大戦と日本	ファシズムの形成と終焉
	25	戦後昭和と政治と社会	民主化の発展
	26	戦国時代から幕藩体制の成立	織豊政権と江戸幕府の成立
	27	江戸時代の政治と社会	江戸幕府の機構
	28	江戸時代の文化	上方と江戸の文化
	29	過去問題演習①・学期末試験	総合問題
	30	過去問題演習②・学期末試験	総合問題
31	過去問題演習③	総合問題	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	世界史Ⅱ	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	18時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ世界史		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	西洋史①	イタリア史
	23	西洋史②	ドイツ・オーストリア史
	24	中国史①	王朝史
	25	中国史②	中世・近世史
	26	インド史	マハラジャから現代まで
	27	帝国主義	植民地の争奪
	28	世界恐慌とファシズム	世界恐慌後の国際情勢
	29	過去問題演習①・学期末試験	総合問題
	30	過去問題演習②・学期末試験	総合問題
31	過去問題演習③	総合問題	
32			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	地理Ⅱ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	18時間	週時間数	2時間
学習到達目標	来年度に向けて、基礎力を高める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ地理		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	気候	気候区分とグラフ
	23	土壌	主な土壌
	24	農業	世界の農業
	25	資源	エネルギー資源と鉱産資源
	26	工業	世界の工業
	27	世界の地域①	アジア
	28	世界の地域②	アフリカ
	29	世界の地域③・期末試験	ヨーロッパ
	30	世界の地域④・期末試験	アメリカ
31	世界の地域④	総合演習	
32			
<p>履修上の留意点</p> <p style="padding-left: 20px;">出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	数的推理Ⅱ	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	27時間	週時間数	3時間
学習到達目標	数的推理の内容についてひとつずつ順を追って理解できるようにしていく。次年度受験に向けての十分な準備のできる内容として進める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	公務員試験過去問1年用		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21	図形の計量	多角形
	22	図形の計量	平面計量
	23	図形の計量	空間計量
	24	図形の計量	空間計量
	25	整数	整数、約数、倍数、剰余
	26	整数	約束記号、記数法
	27	計算パズル	計算パズル
	28	計算パズル	
	29	期末試験	
	30		
31			
32			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	判断推理Ⅱ	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	27時間	週時間数	3時間
学習到達目標	次年度9月の高卒程度公務員試験受験に向けて基礎力アップを図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミシリーズ 一般知能(判断推理)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	数量	問題演習・解説
	23	数量	問題演習・解説
	24	日暦	問題演習・解説
	25	手順	問題演習・解説
	26	手順	問題演習・解説
	27	道順	問題演習・解説
	28	道順	問題演習・解説
	29	過去問題演習①・学期末試験	総合問題
	30	過去問題演習②・学期末試験	総合問題
31	過去問題演習③	総合問題	
32			
<p>履修上の留意点</p> <p style="margin-left: 20px;">出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自然科学Ⅱ	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	27時間	週時間数	2時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の基礎学力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員国家 公務員地方初級 ④ 自然科学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	17		
	18		
	19		
	20		
	21	化学 第16・17章 周期表・非金属元素	講義・演習
	22	化学 第18章 金属元素	講義・演習
	23	化学 第19章 有機化合物	講義・演習
	24	地学 第4章 地球の歴史	講義・演習
	25	地学 第5・6章 大気の運動・気象現象	講義・演習
	26	地学 第7・8章 大気中の水・地球の自転と公転	講義・演習
	27	地学 第9章 太陽系の惑星の運動	講義・演習
	28	地学 第10章 太陽と月・恒星	講義・演習
	29	生物 第5章 生殖と発生	講義・演習
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	数学①	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	9時間	週時間数	1時間
学習到達目標	基本演習とその解説により、公務員試験に必要な数学の基礎知識の定着		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	東京アカデミー 国家Ⅲ種地方初級公務員 数学・理科		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22	第1章 数と式	因数分解・指数法則
	23	第2章 2次関数・2次方程式	グラフ・最大最小
	24	第2章 2次関数・2次方程式	移動・解の解法
	25	第2章 2次関数・2次方程式	解と係数の関係
	26	第3章 その他の方程式・不等式	高次方程式
	27	第4章 図形と方程式	円
	28	第5章 三角比・三角関数	正弦定理・余弦定理
	29	第6章 数列	等差数列・等比数列
	30	対数・学期末試験	総合問題
31	総合問題・学期末試験	総合問題	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			



## 授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習 I	指導担当者名	徳永 圭子・井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	45時間	週時間数	5時間
学習到達目標	公務員試験習熟度確認		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	公務員試験過去問1年用		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後期	17	第1回 模擬試験	演習
	18	第2回 模擬試験	演習
	19	第3回 模擬試験	演習
	20	第4回 模擬試験	演習
	21	第5回 模擬試験	演習
	22	第6回 模擬試験	演習
	23	第7回 模擬試験	演習
	24	第8回 模擬試験	演習
	25	第9回 模擬試験	演習
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	適性・文章理解Ⅱ	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	27時間	週時間数	3時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の適性能力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	ウイネット全80回適性試験・天声人語書き写し		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後期	17	第62回～65回	演習
	18	第66回～69回	演習
	19	第70回～72回	演習
	20	第73回～75回	演習
	21	第76回～79回	演習
	22	第80回～2回	演習
	23	第3回～5回	演習
	24	第6回～8回	演習
	25	第9回～11回	演習・期末テスト
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	29時間	週時間数	1時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験2次面接対策		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	公務員試験過去問		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	自己紹介	話し合い
	2	ゲーム	話し合い
	3	集団討論	過去問による演習
	4	集団討論	過去問による演習
	5	集団討論	過去問による演習
	6	集団討論	過去問による演習
	7	集団討論	過去問による演習
	8	集団討論	過去問による演習
	9	集団討論	過去問による演習
	10	集団討論	過去問による演習
	11	集団討論	過去問による演習
	12	集団討論	過去問による演習
	13	集団討論	過去問による演習
	14	集団討論	過去問による演習
	15	集団討論	過去問による演習
	16	集団討論	過去問による演習
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員科1年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	29時間	週時間数	1時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験2次面接対策		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	公務員試験過去問		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	集団討論	過去問による演習
	18	集団討論	過去問による演習
	19	集団討論	過去問による演習
	20	集団討論	過去問による演習
	21	集団討論	過去問による演習
	22	集団討論	過去問による演習
	23	集団討論	過去問による演習
	24	集団討論	過去問による演習
	25	集団討論	過去問による演習
	26	集団討論	過去問による演習
	27	集団討論	過去問による演習
	28	集団討論	過去問による演習
	29	集団討論	過去問による演習
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	政治経済Ⅲ	指導担当者名	宇藤 信之
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	55時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各公務員試験1次試験の全員合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	麻生公務員テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 前期	1	答練①対策	(政治)民主政治の成立
	2	答練②対策	(政治)日本国憲法・基本的人権の尊重①
	3	答練③対策	(政治)基本的人権の尊重②・日本の政治機構①
	4	答練④対策	(政治)日本の政治機構②
	5	答練⑤対策	(政治)現代政治の諸問題
	6	答練⑥対策	(政治)国際政治の現状と課題
	7	答練⑦対策	(経済)経済社会のしくみ・日本経済の構造と成長①
	8	答練⑧対策	(経済)日本経済の構造と成長②・日本経済の現状と諸問題
	9	答練⑨対策	(経済)国際経済と経済協力
	10	答練⑩対策	(経済)現代経済の諸問題
	11	政治演習①	問題集編P.6～17(12)
	12	政治演習②	問題集編P.18～31(14)
	13	政治演習③	問題集編P.32～43(12)
	14	政治演習④	問題集編P.44～59(16)
	15	政治演習⑤	問題集編P.60～71(12)
	16	政治⑥/経済演習①	問題集編P.72～85(14)
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	政治経済Ⅲ	指導担当者名	宇藤 信之
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	55時間	週時間数	3時間
学習到達目標	各公務員試験1次試験の全員合格		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	麻生公務員テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	経済演習②	問題集編P.86～97(10)
	18	経済演習③	問題集編P.98～111(14)
	19	経済演習④	問題集編P.112～119(8)
	20	経済演習⑤	問題集編P.120～133(14)
	21	経済演習⑥・期末テスト	問題集編P.134～147(14)
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	日本史Ⅲ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	44時間	週時間数	2時間
学習到達目標	1年次からの学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミテキスト、オリジナルテキスト、公務員合格ゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	原始時代、古代前期	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	2	平安時代、鎌倉時代	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	3	室町時代	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	4	戦国時代から幕藩体制の成立	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	5	江戸時代の政治と社会	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	6	江戸時代の文化	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	7	開国・維新期の政治と社会	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	8	明治・大正の文化	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	9	2つの世界大戦と日本	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	10	戦後昭和と政治と社会	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	11	問題演習	公務員合格ゼミにて演習
	12	問題演習	公務員合格ゼミにて演習
	13	問題演習	公務員合格ゼミにて演習
	14	問題演習	公務員合格ゼミにて演習
	15	問題演習	公務員合格ゼミにて演習
	16	問題演習	公務員合格ゼミにて演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	日本史Ⅲ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	44時間	週時間数	2時間
学習到達目標	1年次からの学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミテキスト、オリジナルテキスト、公務員合格ゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	18	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	19	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	20	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			



## 授業計画(シラバス)

科目名	世界史Ⅲ	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	44時間	週時間数	2時間
学習到達目標	1年次からの学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミテキスト、オリジナルテキスト、公務員合格ゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	四大文明、ギリシャ世界とローマ帝国	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	2	中世ヨーロッパ世界	オリジナルテキストによる学習、1問2答による確認
	3	近代ヨーロッパの形成と発展	オリジナルテキストによる学習、1問3答による確認
	4	近代ヨーロッパの形成と発展	オリジナルテキストによる学習、1問4答による確認
	5	中国王朝国家の発展	オリジナルテキストによる学習、1問5答による確認
	6	イスラム世界の形成と発展	オリジナルテキストによる学習、1問6答による確認
	7	市民革命	オリジナルテキストによる学習、1問7答による確認
	8	ヨーロッパ諸国の東進	オリジナルテキストによる学習、1問8答による確認
	9	2つの世界大戦	オリジナルテキストによる学習、1問9答による確認
	10	第2次世界大戦後の世界	オリジナルテキストによる学習、1問10答による確認
	11	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	12	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	13	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	14	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	15	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	16	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	世界史Ⅲ	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	44時間	週時間数	2時間
学習到達目標	1年次からの学習を総復習し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解・暗記を終了させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミテキスト、オリジナルテキスト、公務員合格ゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	18	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	19	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	20	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	地理Ⅱ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	44時間	週時間数	2時間
学習到達目標	1年次の学習内容を復習する。問題演習を通じて、実問題への対応力を身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナルプリント、公務員合格ゼミ、過去問プリントなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	地形①(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	2	地形②、気候①(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	3	気候②(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	4	世界の農牧業①(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	5	世界の農牧業②、世界の鉱工業①(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	6	世界の鉱工業②、各国の地誌①(アジア)(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	7	各国の地誌②(アジア)、③(アメリカ、ヨーロッパ)(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	8	各国の地誌④(アメリカ、ヨーロッパ)、⑤(その他の地域)(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	9	日本の自然と産業(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	10	人口問題(オリジナルプリント)	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	11	調整週	1年次の振り返りを構内模試を利用し、確認していく。
	12	地形(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	13	気候(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	14	農業(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	15	調整週(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	16	エネルギー資源・鉱工業(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	地理Ⅱ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	44時間	週時間数	2時間
学習到達目標	1年次の学習内容を復習する。問題演習を通じて、実問題への対応力を身につける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナルプリント、公務員合格ゼミ、過去問プリントなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	人口・貿易(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	18	世界の諸地域(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	19	過去問題プリント	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	20	過去問題プリント	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自然科学Ⅲ	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	66時間	週時間数	4時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の学力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	麻生公務員テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	答練①対策	物理・化学・生物・地学
	2	答練②対策	物理・化学・生物・地学
	3	答練③対策	物理・化学・生物・地学
	4	答練④対策	物理・化学・生物・地学
	5	答練⑤対策	物理・化学・生物・地学
	6	答練⑥対策	物理・化学・生物・地学
	7	答練⑦対策	物理・化学・生物・地学
	8	答練⑧対策	物理・化学・生物・地学
	9	答練⑨対策	物理・化学・生物・地学
	10	答練⑩対策	物理・化学・生物・地学
	11	物理演習	速度・力
	12	物理演習	エネルギー・波動
	13	物理演習	電気物理・原子物理
	14	化学演習	原子核構造・結合
	15	化学演習	化学反応・気体の法則
	16	化学演習	酸・塩基
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	自然科学Ⅲ	指導担当者名	徳永 圭子
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	66時間	週時間数	4時間
学習到達目標	高卒程度公務員試験一次合格の学力を身につける		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	麻生公務員テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	化学演習	気体・金属
	18	生物演習	細胞・酵素
	19	生物演習	遺伝・人体
	20	生物演習	恒常性・動物の行動
	21	地学演習	地球の概観
	22	地学演習・期末テスト	宇宙
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	数学②	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	22時間	週時間数	1時間
学習到達目標	確認テスト、期末テスト、授業態度など。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンサマテキスト、オリジナルテキスト、公務員合格ゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	一次方程式、不等式	オリジナルテキストによる学習、1問1答による確認
	2	連立方程式、一次関数	オリジナルテキストによる学習、1問2答による確認
	3	因数分解、平方根	オリジナルテキストによる学習、1問3答による確認
	4	二次方程式	オリジナルテキストによる学習、1問4答による確認
	5	二次方程式	オリジナルテキストによる学習、1問5答による確認
	6	二次関数	オリジナルテキストによる学習、1問6答による確認
	7	二次関数	オリジナルテキストによる学習、1問7答による確認
	8	二次関数	オリジナルテキストによる学習、1問8答による確認
	9	三角比、三角関数	オリジナルテキストによる学習、1問9答による確認
	10	三角比、三角関数	オリジナルテキストによる学習、1問10答による確認
	11	問題演習	公務員合格ゼミ問題集にて演習
	12	問題演習	公務員合格ゼミ問題集にて演習
	13	問題演習	公務員合格ゼミ問題集にて演習
	14	問題演習	公務員合格ゼミ問題集にて演習
	15	問題演習	公務員合格ゼミ問題集にて演習
	16	問題演習	公務員合格ゼミ問題集にて演習
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	数学②	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	22時間	週時間数	1時間
学習到達目標	確認テスト、期末テスト、授業態度など。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オープンセサミテキスト、オリジナルテキスト、公務員合格ゼミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	18	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	19	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	20	問題演習	過去問題からの抜粋にて演習
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			



## 授業計画(シラバス)

科目名	適性演習	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	66時間	週時間数	3時間
学習到達目標	公務員試験本番に向けて、1年生に練習してきたものをさらにブラッシュアップさせる。合格圏にまで到達できるよう励ましながら続ける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	適性検査練習問題(TAC)など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	2	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	3	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	4	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	5	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	6	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	7	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	8	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	9	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	10	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	11	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	12	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	13	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	14	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	15	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	16	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	適性演習	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	66時間	週時間数	3時間
学習到達目標	公務員試験本番に向けて、1年生に練習してきたものをさらにブラッシュアップさせる。合格圏にまで到達できるよう励ましながら続ける。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	適性検査練習問題(TAC)など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	18	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	19	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	20	教材を使った問題演習	時間を有効活用させるために、2回転行う。
	21	期末試験	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	数的推理Ⅲ	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	55時間	週時間数	3時間
学習到達目標	短期間での完成を目指し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解をさせる。校内模試を活用し、復習と振り返りの機会とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	絶対合格シリーズ テキスト編、問題集編		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	数と式の基本	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	2	覆面算、方陣算	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	3	数の並びと規則、n進法	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	4	速度、距離	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	5	割合、比、濃度	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	6	平面図形	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	7	円	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	8	立体図形	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	9	順列、組合せ	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	10	確率	テキスト編から解説、問題演習(10回校内模試対応期間)
	11	年齢算、売買損益	テキスト編から解説、問題演習
	12	平均、方程式	テキスト編から解説、問題演習
	13	時計算、不等式	テキスト編から解説、問題演習
	14	ニュートン算、整数	テキスト編から解説、問題演習
	15	単元別演習(論理分野)	問題集編から演習、解説
	16	単元別演習(論理分野)	問題集編から演習、解説
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)(改定案)

科目名	数的推理Ⅲ	指導担当者名	白鳥 吉洋
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	55時間	週時間数	3時間
学習到達目標	短期間での完成を目指し、受験に備える。主要科目として、確実に全範囲について理解をさせる。校内模試を活用し、復習と振り返りの機会とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	絶対合格シリーズ テキスト編、問題集編		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画 後期	17	単元別演習(論理分野)	問題集編から演習、解説
	18	単元別演習(図形分野)	問題集編から演習、解説
	19	総合演習	問題集編から演習、解説
	20	総合演習	問題集編から演習、解説
	21	期末テスト	
	22	総合演習	問題集編から演習、解説
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	判断推理Ⅲ	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	55時間	週時間数	3時間
学習到達目標	1年次に学習した内容を振り返り、実問題レベルの問題を解けるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	確認テスト、期末テスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	論理と集合(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	2	対応関係、暗号解読(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	3	順序関係、試合の勝敗(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	4	方位・位置関係(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	5	手順・数量関係、うそつき問題(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	6	道順。一筆書き、軌跡(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	7	平面図形の分割・構成、折り紙(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	8	空間図形の分割・構成、投影図(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	9	展開図、サイコロ(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	10	立体図形の切断(オリジナルテキスト)	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	11	調整週	1年次の振り返りを校内模試を利用し、確認していく。
	12	命題・論理、暗号(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	13	試合と勝敗、うそつき、対応関係(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	14	順位・順序、家族関係(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	15	比較、手順、曜日(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	16	位置、方位、道順(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	判断推理Ⅲ	指導担当者名	今野 沙緒里
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	55時間	週時間数	3時間
学習到達目標	1年次に学習した内容を振り返り、実問題レベルの問題を解けるようにする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	確認テスト、期末テスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	平面図形(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	18	立体(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	19	展開図、折り紙(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	20	投影図・見取図、サイコロ(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	21	期末テスト	
	22	軌跡、断面図・回転体(公務員合格ゼミ)	実問題レベルに挑戦し、レベルアップを図る。
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	資料解釈	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	22時間	週時間数	1時間
学習到達目標	難易度の低い問題から始め、解き方のコツを理解させる。実問題レベルに対応できるように学習を進める。資料解釈への苦手意識を払拭させる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	公務員合格ゼミ、ウイネットワークブック、東京アカデミーオープンセサミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	指数(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	2	増加率(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	3	割合(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	4	実数(公務員合格ゼミ)	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	5	調整週	基本的な解き方を理解し、基礎問題に対応できるようにする。
	6	数表(ウイネット講義編)	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	7	図表(ウイネット講義編)	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	8	特殊な数表・図表(ウイネット講義編)	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	9	調整週	学習した解き方を利用し、基礎的な問題の答練を行う。
	10	数表-実数と構成比(ウイネットワークブック)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	11	数表-増加率・減少率(ウイネットワークブック)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	12	数表-未知数(ウイネットワークブック)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	13	調整週	実問題レベルの問題に挑戦する。
	14	図表-実数と構成比(ウイネットワークブック)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	15	図表-増加率・減少率(ウイネットワークブック)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	16	図表-未知数(ウイネットワークブック)	実問題レベルの問題に挑戦する。
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	資料解釈	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	22時間	週時間数	1時間
学習到達目標	難易度の低い問題から始め、解き方のコツを理解させる。実問題レベルに対応できるように学習を進める。資料解釈への苦手意識を払拭させる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	公務員合格ゼミ、ウイネットワークブック、東京アカデミーオープンセサミなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	調整週	実問題レベルの問題に挑戦する。
	18	特殊な数表・図表(ウイネットワークブック)	実問題レベルの問題に挑戦する。
	19	過去問題プリント	実問題レベルの問題に挑戦する。
	20	調整週	実問題レベルの問題に挑戦する。
	21	期末テスト	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			



## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
時間数	31時間	週時間数	1時間
学習到達目標	目指す公務員について調査し、面接準備・面接カード作成に十分な知識を持つ。公務員試験についても調査、理解する。面接指導、作文指導も行う。(インターネット利用)		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	面接対策&ビジネスマナー、オリジナルレジュメなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	目指す公務員についての調査	前年度資料などを使用し、目標とする公務員について調査。DVD鑑賞も行う。
	2	目指す公務員についての調査	前年度資料などを使用し、目標とする公務員について調査。DVD鑑賞も行う。
	3	目指す公務員についての調査	前年度資料などを使用し、目標とする公務員について調査。DVD鑑賞も行う。
	4	調整週	
	5	まとめ	
	6	発表	
	7	作文	
	8	調整週	
	9	公務員試験についての調査	募集要項やインターネットを使い、受験予定の公務員試験を調査。指導、日程調整も行う。
	10	公務員試験についての調査	募集要項やインターネットを使い、受験予定の公務員試験を調査。指導、日程調整も行う。
	11	公務員試験についての調査	募集要項やインターネットを使い、受験予定の公務員試験を調査。指導、日程調整も行う。
	12	まとめ、スケジュール作成	
	13	作文	
	14	調整週	
	15	公務員試験受験申込調査	受験予定ガイダンス
	16	公務員試験受験申込調査	受験予定ガイダンス
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	通年	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習:○ 実技:
時間数	31時間	週時間数	1時間
学習到達目標	目指す公務員について調査し、面接準備・面接カード作成に十分な知識を持つ。公務員試験についても調査、理解する。面接指導、作文指導も行う。(インターネット利用)		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	面接対策&ビジネスマナー、オリジナルレジュメなど		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	公務員試験受験心得	オリジナルレジュメによる指導
	18	公務員試験受験心得	オリジナルレジュメによる指導
	19	公務員試験受験心得	オリジナルレジュメによる指導
	20	公務員試験受験心得	オリジナルレジュメによる指導
	21	公務員試験受験心得	オリジナルレジュメによる指導
	22	公務員試験受験心得	オリジナルレジュメによる指導
	23	公務員試験受験心得	オリジナルレジュメによる指導
	24	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	25	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	26	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	27	作文	
	28	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	29	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	30	社会人としての心構え	オリジナルレジュメによる指導
	31	期末テスト	
32	調整集		
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習Ⅱ	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	110時間	週時間数	15時間
学習到達目標	模擬試験により、自己のこれまでの学習をチェックし、今後の学習に役立てる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナル校内模試、ウイネット校内・統一模試、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	模擬試験演習	
	2	模擬試験演習	
	3	模擬試験演習	
	4	模擬試験演習	
	5	模擬試験演習	
	6	模擬試験演習	
	7	模擬試験演習	
	8	模擬試験演習	
	9	模擬試験演習	
	10	模擬試験演習	
	11	模擬試験演習	
	12	模擬試験演習	
	13	模擬試験演習	
	14	模擬試験演習	
	15	模擬試験演習	
	16	模擬試験演習	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	一般教養演習Ⅱ	指導担当者名	井口 義基
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	110時間	週時間数	15時間
学習到達目標	模擬試験により、自己のこれまでの学習をチェックし、今後の学習に役立てる。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	オリジナル校内模試、ウイネット校内・統一模試、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	模擬試験演習	
	18	模擬試験演習	
	19	模擬試験演習	
	20	模擬試験演習	
	21	期末試験	
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点			

## 授業計画(シラバス)

科目名	Word実習	指導担当者名	高田 明日香
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	2月受験のWord検定3級合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	Wordクイックマスター、Word検定問題集など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	基本操作、文字の入力	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	25	文書の編集、文書の印刷	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	26	文書の作成	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	27	文書の作成	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	28	書類送付案内、営業所案内図	クイックマスターによる内容把握と問題集による知識把握
	29	問題演習	練習問題
	30	問題演習	練習問題
31	期末テスト、問題演習	模擬問題	
32	問題演習	模擬問題	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	所得税法	指導担当者名	
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	税法に関する知識を早期に理解して、解答力を高める。そして所得税法3級の合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	税法テキスト(共栄出版)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	所得税のあらまし	税金の分類
	25	所得税の内容と計算方法	科目別の税額計算
	26	課税標準	課税標準の計算
	27	所得控除	14種類の所得控除を正しく計算
	28	税額の計算	申告納税額の計算方法
	29	所得税の申告・納付等の手続	確定申告制度の理解
	30	演習①	第1回演習問題
31	演習②	第2回演習問題	
32	期末テスト		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	秘書演習	指導担当者名	和田 好美
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員科2年
授業方法	講義:○	演習:○	実習: 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	2月の秘書検定3級に向けて学習する。秘書の資質、職務知識、マナー、接遇など社会人として必要な知識技能を習得する。ビジネスマナーの必要性を十分に理解し、社会人として信頼ある立ち居振る舞いを身に着ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	秘書ハンドブック、練習問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	秘書の資質	求められる能力ビジネスマナーの必要性
	25	職務知識	秘書の機能、秘書の業務
	26	マナー・接遇	秘書と人間関係、接遇のマナー、敬語と接遇用語、電話応対、
	27	マナー・接遇	報告と説明、依頼と説得、命令・指示の受け方、交際の業務
	28	技能	会議、文書の作成、資料の管理、日程の管理
	29	秘書検定3級対策	問題演習解答解説
	30	秘書検定3級対策	問題演習解答解説
31	秘書検定3級対策	問題演習解答解説	
32	秘書検定3級対策、期末試験	問題演習解答解説	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	硬筆書写演習	指導担当者名	高橋礼子
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	公務員短期受験科
授業方法	講義:	演習:	実習: 実技:
時間数	63時間	週時間数	7時間
学習到達目標	1月末受験の硬筆書写検定3級の合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	硬筆書写検定3級合格のポイント、過去問題など		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24	問題演習	実技(第一問、第二問)
	25	問題演習	実技(第三問、第四問)
	26	問題演習	実技(第五問、第六問)
	27	問題演習	理論(第七問～第十問)
	28	問題演習	調整週
	29	確認テスト、問題演習	部首テスト(冬休み宿題)、過去問題による答案練習
	30	問題演習	過去問題による答案練習
31	期末テスト、問題演習	過去問題による答案練習	
32	問題演習	過去問題による答案練習	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。			